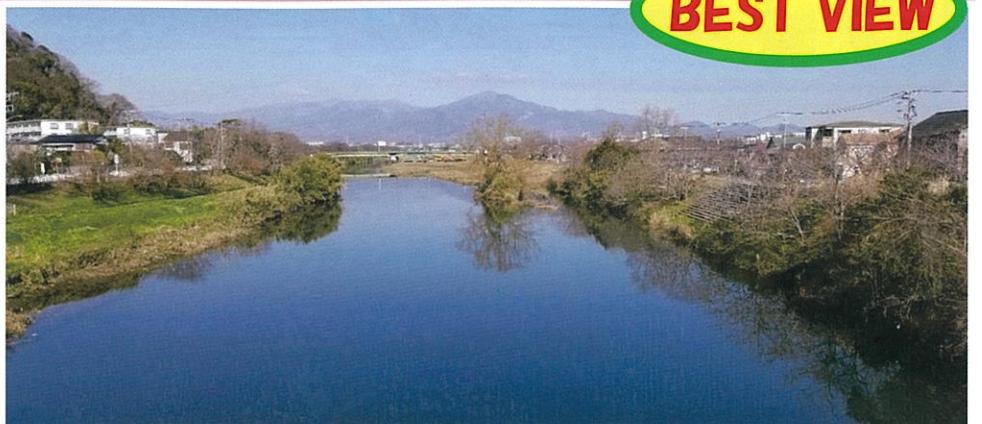


花水橋から遠く大山を望む（左側は高麗山）

金目川は平塚大橋下流で鈴川や河内川と合流し、一国、東海道線及び西湘国道をぐるりと相模湾に注ぎます。このあたりでは川幅も広く流れは緩やかで干溝の影響がある汽水域となります。

かつてさまざまに流路を変え、大磯との境界が入り組んでいるところもあります。広重の東海道五十三次 平塚宿の浮世絵では高麗山と共に描かれています。文：原博雄



「子どもたちが安心して学び・遊べる川づくり」（第1回）

みなさんは子どものころに川で遊んだことがあるでしょうか。年配者なら Yes と答えるでしょう。でも 10 歳以下の子どもや保護者ならあまり川に入ったことはないようです。川に入ると子どもはいろんな表情を見せます。嬉しそうな笑顔、不安げな顔、生き物に出会って驚き、興味深そうな顔など。屋外の遊びは子どもの成長の糧となると言われています。成長して、住みよい地域作りや地球環境問題に取り組む大人になって、子どものころの川遊びを故郷の景色と思ってくれれば最高です。私たちは、金目川とその支流がきれいできれい、自然豊かで、子どもたちが遊べる川になることを目指しています。次回事例を紹介します。

文：上田秀一

軽鴨



冬場に水場をにぎわすカモ達、多くは春になると北へ向かいます。渡りをせず、一年中、地味な羽で留まるのがカルガモです。

カルガモと言えば、何羽もの雛が親の後ろをついていく姿。卵は普通 10 個前後で、母親だけで抱卵し育てます。母親の仕事は外敵から雛を守ること、餌場に連れていき学ばせること。生まれて歩けるようになった雛は母親のまねをして自分で餌を探します。

雛は小さく飛べませんので、カラスや蛇などの絶好の餌食です。大雨で流されたりもします。10 羽いた雛は日に日に数を減らし、1 ヶ月後に 3 羽残ればいいほう。でも、いなくなったら 2 番子です。数で命をつなぐ戦略。自然は過酷ですが、一方でしたたかです。

文：近藤博史

里川の 自然と文化

大山講

鈴川の上流、大山川とも呼ばれる川沿いには大山参りのための宿坊が今も残っています。

一人で遠出する事が難しかった時代、近所同士、職業同士で団体を作り「講」として神社を参拝しました。江戸から 2~3 日で参拝できる大山に定宿を持ち、先導師（大山信仰の布教活動をする人）に導かれて、かつては水やりをしたといわれる滝もいくつかあります。

江戸の昔から信仰と観光を組み合わせたテーマパークとして知られる大山。豊かな水量の川の流れを眺めつつ歴史に想いを馳せることのできるスポットです。

文：山口和子



表紙 ミズガキ検定の答え

第一問 支流ごとに水源があるが、金目川本流の水源は大山西方の春嶽山の髭僧の滝付近。

第二問 下水道の整備や合併浄化槽の普及により、生活排水が直接川に流れ込まなくなったため。油をふき取ったり洗剤を減らすことでもっときれいになるよう努力しよう。

第三問 ③オニグルミ。金目川の川岸で大きな実がなっているのをよく見かける。①は人が土手に植えたもの。

BEST VIEW

金目川水系で子どもたちが安心して学び遊べる川づくり



湘南 里川だよ!

湘南里川づくりみんなの会 会報

2020年 6月
第2号

湘南里川づくりフォーラム 2020 報告

基調講演 2020年2月2日 於：東海大学湘南校舎 参加者 90名

「ミズガキ検定（都市アメニティ検定）アリの眼、トリの眼、イルカの眼を持つ
ミズガキの眼で金目川検定問題を作り続けよう！」

江戸川大学名誉教授 恵小百合（めぐみさゆり）氏



「ミズガキ」は、淡水魚類研究家・君塚芳輝氏が命名した水辺を良く知り水辺に集まって遊ぶ子供たちを称した言葉で、最近はめったに見られなくなった絶滅危惧種。恵小百合先生は、これまで取り組んできた都市アメニティ研究の観点やご自身の荒川流域ネットワークでのご経験から、金目川流域の特徴や課題をこの「ミズガキ」復活を目指した検定問題とし

て伝えると共に、その問題作成と解答作成を繰り返す中で様々な地域の課題を解決し、財産として次世代に引き継いでいくという活動を提案して下さいました。

「ミズガキ」の持つ様々な眼は、川から海へつながる環境が地域や流域の市民にとって健全であることを映す鏡。金目川流域は階段等が整備されてアクセスのしやすい場所など教育の場として恵まれたところが豊富で、「ミズガキ」の育成に適したところ。「ミズガキ」が絶滅しないよう、「ムカシミズガキ」のみなさん頑張ってください、とエールを送っていただきました。



分科会1

「川の水温が上がったらどうなるの？」
コーディネーター：柳川三郎氏

金目ネットが行っている真夏の水温一斉調査の結果と水温上昇による水生生物の生育環境に与える影響を考え、私たちにできることは何か意見交換しました。



分科会2

「子どもが遊べる川づくり」
コーディネーター：上田秀一氏

子どもの川遊びを取り巻く現状について各方面的意見を聞き、イベントの開催や川遊び場所の整備などを通じた今後の活動展開について話し合いました。



分科会3

「里川づくりと若者世代」

コーディネーター：東海大学生
学生企画で、里川づくりの活動に若者世代の加入が少なく地域連携が進まないことの原因を考え、広報媒体などですれ違が起きていたりが起きた現状を認識しました。



分科会後の全体意見交換会では、若者世代を含めた多くの協力を得る方法を工夫し、里川づくりみんなの会として具体的な活動を進めることができます。詳しくは湘南里川づくりホームページで紹介していますので、ぜひご覧ください。

作ってみました！

ミズガキ検定に挑戦！ 第1回

第一問 金目川の水源はどこでしょうか？

第二問 ここ 2、30 年で水がきれいになったといわれているけれどなぜかな？

第三問 木の実が川を流れ運ばれて広がるものは次のうちどれでしょう

- ①ソメイヨシノ
- ②ハナイカダ
- ③オニグルミ

こたえは巻末をみてね



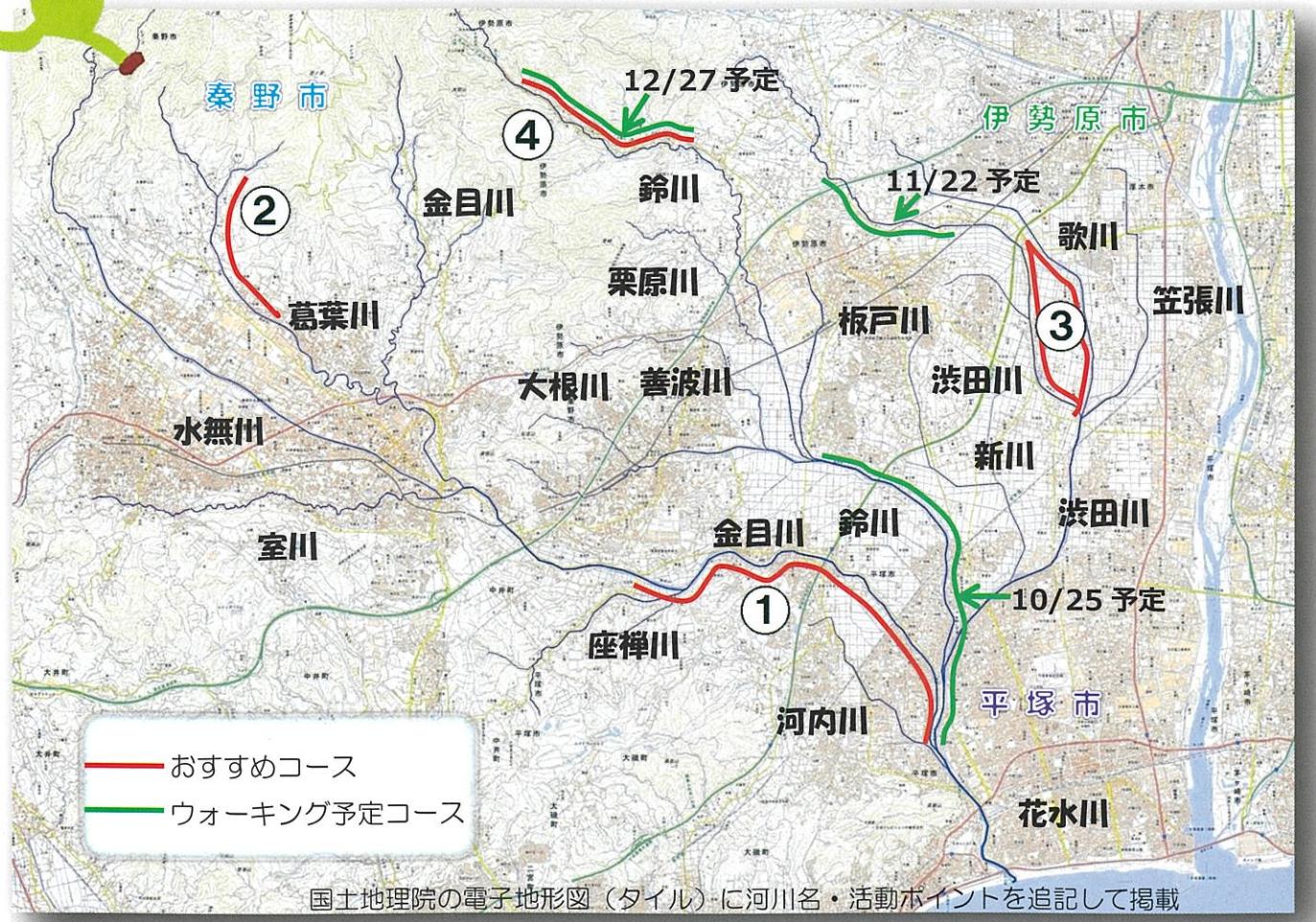
イラスト：阿木二郎氏

湘南里川づくりみんなの会会報「湘南里川だより」
第2号
発行日 2020年6月20日
発行 湘南里川づくりみんなの会
編集会報編集委員会 担当 手塚真理
事務局 〒254-0073 平塚市西八幡 1-3-1
神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整課
電話 0463(22)2711
ホームページ：湘南里川づくり で検索！

みんなで歩こう！湘南里川見守りウォーキング



川の自然や地域の文化・歴史に触れながら、川歩きを楽しみましょう！



【今後の実施計画】（酷暑を避けて盛夏期はお休み。新型コロナウイルス感染状況により変更する場合あり）

- 10月25日(日) 鈴川(玉川橋～舟橋 5.3km) 集合…10:00 南原土手バス停(平塚市)
- 11月22日(日) 鈴川上流(千代見橋～中川原橋 3.7km) 集合…10:00 大山ケーブルバス停(伊勢原市)
- 12月27日(日) 渋田川中流(若宮橋～川上橋 3.0km) 集合…10:00 粕屋下宿バス停(伊勢原市)

※参加費…¥200 (保険代・資料代補助として)

※天候対応…前日 12 時の神奈川県西部の予報で当日午前中の降水確率が 50%以上で中止。次回順延。

※持ち物等…歩きやすい靴、帽子、調節可能な服装、飲物、双眼鏡、ルーペ、

※参加申込…神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整課 (0463-22-2711)

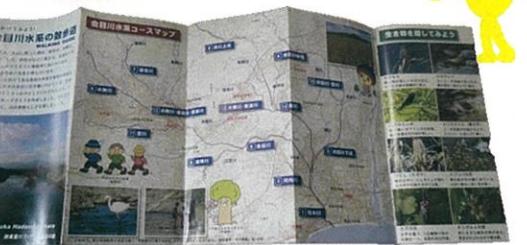
ウォーキング幹事: 山口俊彦 (0463-59-2879)

湘南里川見守りウォーキングは開始から8年目を迎えました。団体会員と異なり特定の活動領域を持たずに湘南里川見守り隊に参加した個人会員は、登録がありながら具体的な活動機会がありませんでした。そこで個人会員の活性化策として見守りウォーキングが始まりました。

金目川水系を隅から隅まで見て歩こうと、河口から源流まで、右岸と左岸、名前も知らなかった支流なども見て歩きました。その成果の一つとして「金目川水系の散歩道」と題してウォーキングガイドを提案、発行に至りました。

2019年は個人会員の活性化策としてではなく、友人や知人、(湘南里川づくりみんなの会の活動の一つとして)登録団体に加盟している会員の皆さんにも呼び掛けて歩く仲間を広げることいたしました。歩くコースは作成した「金目川水系の散歩道」を、個人会員の有志6名がスタッフとしてご案内いたします。実施日は第4日曜日と固定して、お仕事のある方・児童学生の方にも参加しやすくしました。

ゆっくりと景観を楽しみ、草花や生き物を観察しながら「ふるさとの川金目川」を味わいます。
湘南里川づくりの活動として金目川を理解し仲間を増やしたいと思います。

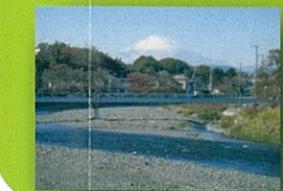


ウォーキングガイド「金目川水系の散歩道」
ご希望の方は事務局まで

雄大な景色が好きなあなたには・・・

富士山と川のコラボレーション

① 金目川中流：東雲橋～土屋橋コース



花や野鳥が好きなあなたには・・・

桜と芝桜の名所、カワセミやカモにも出会える

③ 渋田川・歌川：土安橋周回コース



お散歩好きなあなたに贈る
おすすめ4コース

里山・里川の風景が好きなあなたには・・・

石橋のかかる小川の風情が懐かしい

② 葛葉川上流：小羽根橋～山内橋コース



歴史や文化が好きなあなたには・・・

かつての大山信仰の賑わいに触れながら歩く

④ 鈴川上流：千代見橋～中川原橋コース



湘南里川見守り隊紹介

団体会員

NPO 法人東海大学地域環境ネットワーク

理事長 藤野 裕弘 (東海大学教養学部)

NPO 法人東海大学地域環境ネットワークは、大学名のついた NPO で、事務局も東海大学の湘南キャンパスにあります。設立は、2006 年 4 月で、地域との共同による環境教育の実施や地域コミュニティ創造が活動目的になります。他の NPO と異なる特徴は、学生会員（会費無料）のカテゴリーを設けていることです。学生会員は、一般会員と一緒に、小学生対象の親子川の生物観察会や出前授業、地域連携企画に参加し、スキルアップをはかっています。2019 年度からは、沖縄県宮古島の小学校や北海道夕張郡栗山町との連携企画もはじめました。その他、環境カウンセラー全国連合会と連携して、環境教育インストラクター資格取得支援を目的とした公開講座（無料）を実施しています。写真は活動風景です。



2019 年度の講座

賛助会員

横浜ゴム株式会社 平塚製造所

YOKOHAMA

私達は「お客様や地球から愛され、ゆるぎない信頼を得ている事業所」を目指し、地域社会との共存、環境への貢献活動を推進しています。一例として、事業活動において必要な金目川水系の貴重な水資源を見守るため、生物多様性保全活動を進めています。これからも、この豊かな水系を次世代に引き継ぐため、湘南里川づくりみんなの会を応援します。

